

Z-62-A [第一問] 簿記論 模範解答

問1

(1)	(ア)	A支店	★	(キ)	972,459	★
	(イ)	本店売上	★	(ク)	4,419	★
	(ウ)	B支店	★	(ケ)	社債発行差金償却	★
	(エ)	割賦販売上	★	(コ)	未収消費税等	★
	(オ)	繰越商品※	★	(サ)	雑収入	★
	(カ)	2,400	★			

※ 別解
割賦商品又は繰越割賦商品でも可

(2)

評価勘定である社債発行差金勘定には、約定利息を支払うことによる損益と発行価額と額面金額との差額の調整による損益を区別するという損益管理目的の役割と、帳簿上で額面金額を明らかにしつつ、その時点における社債の評価額が取引価額を表すように調整するという財産管理目的の役割がある。	☆
--	---

問2

(単位：円)

(1)		借方科目	金額	貸方科目	金額
当社	(a)	長期借入金	80,000,000	資本金	80,000,000
	(b)	仕訳なし			
A社	(a)	投資有価証券	60,000,000	長期貸付金	80,000,000
		貸倒引当金	2,000,000		
		債権放棄損	18,000,000		
	(b)	貸倒引当金繰入額	28,821,975	貸倒引当金	28,821,975
(2)	日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
X4年 6月 30日		減価償却累計額	8,500,000	建物	20,000,000
		減価償却費	125,000		
		火災未決算	10,000,000		
		火災損失	1,375,000		
X4年 7月 10日		未収金	8,000,000	火災未決算	10,000,000
		火災損失	2,000,000		

なお、すべての欄に記入するとは限らないので、必要のない欄は空欄のままにすること。

予想配点：★1つにつき1点、

☆1つにつき2点、【合計25点】

Z—62—A 〔第二問〕 簿記論 模範解答

問 1

(1)	①	★	売 上	②	★	繰越商品
(2)	★		17,500	(千円)		
(3)	★		216,600	(千円)		
(4)	★		15,700	(千円)		
(5)	☆		236,200	(千円)		

問 2

(単位：千円)

①	☆	10,000
②	★	18,000
③	★	59,200
④	★	1,795,200
⑤	★	125,000
⑥	☆	2,000

問 3

(1)	①	★	60	②	★	10	(個)
(2)	☆		41,160	(円)			
(3)	☆		70,900	(円)			
(4)	方法	☆	総平均法	月次損益	☆	29,320	(円)

予想配点：★1つにつき1点、

☆1つにつき2点、【合計25点】

Z—62—A 〔第三問〕 簿記論 模範解答

(単位：円)

番号	勘定科目	金額	番号	勘定科目	金額
1	現金	☆ 290,000	21	棚卸減耗損	★ 102,000
2	当座預金	☆ 1,035,800	22	品質低下評価損	★ 80,000
3	売掛金	☆ 32,304,500	23	人件費	☆ 98,463,300
4	商品	★ 21,074,800	24	営業費	☆ 6,189,825
5	リース資産	★ 3,989,025	25	租税公課	★ 1,584,000
6	投資有価証券	★ 131,475,000	26	減価償却費	☆ 7,912,000
7	繰延税金資産	★ 7,544,400	27	支払利息	★ 949,935
8	未払法人税等	★ 7,982,600	28	為替差損	☆ 574,000
9	未払消費税等	☆ 5,661,800	29	投資有価証券評価損	★ 6,330,000
10	貸倒引当金	☆ 2,811,885	30	商品廃棄損	★ 27,200
11	賞与引当金	☆ 9,600,000	31	法人税等	★ 10,955,600
12	リース債務	★ 4,084,635	32	法人税等調整額	★ △61,200
13	長期前受収益	★ 89,025	33	売上高	☆ 360,265,000
14	繰延税金負債	★ 4,840,000	34	雑収入	☆ 60,000
15	退職給付引当金	☆ 6,660,000	35	投資有価証券売却益	★ 680,000
16	資本金	☆ 80,000,000			
17	圧縮積立金	★ 6,300,000			
18	繰越利益剰余金	★ 78,457,380			
19	その他有価証券評価差額金	★ 960,000			
20	売上原価	☆ 210,511,000			

予想配点：★1つにつき1点、

☆1つにつき2点、【合計50点】

第62回 税理士試験 簿記論 講評

第一問

問1は、本支店会計、割賦販売、社債、消費税に関する取引について、制度上認められている複数の会計処理間でどのように勘定科目や数値が異なるかを比較する問題でした。

理論問題については、部分点を狙い、比較的平易な仕訳問題がどれだけできたかがポイントになります。

問2は、デット・エクイティ・スワップと火災損失と保険金に関する仕訳問題でした。デット・エクイティ・スワップに関しては、A社は出来なくても合否に影響はありません。

火災損失については、完答しなければならない問題でした。

第二問

問1は、持分法に関する問題でした。集計にやや手間がかかる問題です。落ち着いて集計できたかがポイントになります。

問2は貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関連性を利用したそれぞれの空欄を推定させる問題です。営業収入の算定の際に貸倒引当金を考慮しなければなりません、忘れがちです。営業収入を間違えてしまうと、合計3箇所も間違えてしまいます。得点差が出やすい問題でした。

問3は、商品有高帳に関する問題でした。分記法をきちんと理解していれば(1)から(3)までは解答できる問題だと思います。(4)は時間との兼ね合いで本試験では手が回らなかった方が多かったのではないかと思います。

第三問

本問は、支店があるものの本支店会計というほどではなく、通常の総合問題でした。ただし、支店の会計処理を集計漏れしないように注意する必要があります。

ボリュームは例年並でしたが、問題文の読解が難解な箇所もありました。全体的にみて難易度は高めの問題といえます。点数を取りやすい論点からいかに部分点を積み重ねるかが合否をわける、税理士試験らしい問題だったでしょう。

具体的には、現金や当座預金、有形固定資産、投資有価証券、賞与引当金、退職給付引当金などが得点すべき箇所だったのではないのでしょうか。

予想合格ライン

ボーダーラインは第一問が15点、第二問が12点、第三問が18～20点、合計で45～47点になると予想されます。

第一問	第二問	第三問	合計
15点	12点	18～20点	45～47点